

# 継続は力なり，門前の小僧習わぬ経を読む？

## Persistence is Power, a Young Bonze Recite a Sutra which He Hasn't Learned?

山田美都子 Mitsuko YAMADA

昨年の秋に会社の上司であり先輩であるSさんが病のため急逝した。まだ47歳だった。Sさんは東北大学の栗原教授が京都大学にいらっしゃったとき、同じ研究室にいた学生だった。そのSさんとのご縁もあり、また私の研究テーマについてご相談させていただいたのがきっかけで、栗原先生とおつきあいさせていただいており、今回の投稿についてご相談を受け、私の経験が何かのお役に立つのなら、とお引き受けすることにした。

私が入社する前、部下となる私の新入社員教育を任されることになったSさんは、当時の上司から「今度女性が入ってくるけど大丈夫かな？」と確認されたそうだ。1988年当時、私が配属された石油化学製品開発に携わる研究所には女性スタッフがいなかったからだ。“女性初”ということは入社してから知った。しかも私は農学部園芸農学科を専攻していて、プラスチックや高分子、成形加工のことなどまるで素人だった。始めは聞きなれない言葉についていけず、悩んだ時期もあったが、先輩や同期入社の人達の助け、「門前の小僧」効果もあり、気がつけば22年仕事を続けてくることができた。

当時、その研究所では、ポリエチレンやポリプロピレンをはじめ、塩ビ、アクリル、ゴムなどのさまざまな樹脂を使った製品開発を行っていた。私の担当テーマは農業用ハウスに被覆する資材の研究開発だった。大学時代、農業用ハウスの資材を使って花や野菜を栽培し、実験していたが、入社してから資材にもいろいろあることを知った。

その感覚は、ユーザーである農家さんも同様であり、資材についてよく知らなかったり、正しく理解されていないことが多かった。そこで両者をつなげる役割を果たすことで、私の経歴を活かせる場があるのでは、と気づき、やりがいを見いだした。

農業用ハウスの被覆資材に求められる機能は、保温性、防曇性、耐候性、光線透過性などである。ベースとなる樹脂は、かつて軟質塩ビが主流であったが、住友化学がポリエチレン系の多層フィルムを開発して以来、環境への配慮や省資源の視点から徐々にシェアを

置き換えつつある。塩ビ製とポリエチレン製で何が違うのか？ メーカーによって性能が異なるのは何によるのか？ 農家の方々にわかりやすく説明することは、私自身の勉強でもあった。

新しい機能の資材を開発するため、全国各地の農業試験場や大学へ評価試験を依頼したり、教えを請いに行った。ほとんど一人で、ずいぶんと自由に行動してもらったと思う。インターネットがまだ普及していない頃だったが、文献を調べて、電話をかけてアポをとり、時刻表と地図を片手に初めての町にでかけていった。北海道でお世話になった試験場の先生とは20年来のおつきあいをさせていただいている。たまに上京されるときには新橋の行きつけの店で美味しいお酒を飲みつつ、最近の農業事情について語り合い、お会いするたびに良い刺激を受けている。

そんなふうに分の足と耳で集めた知識や、クレーム処理によって得た経験は、少しずつ、少しずつ、自分の血となり肉となり、研究12年めで営業に転勤してからは、現場を知っている技術者として、さまざまな商品説明会で重宝がられた。

適材適所という言葉があるが、性別の違いも含めて、仕事に就く前に適材かどうかなど誰にもわからないと思う。私自身がそうであったように、適応しようとしているいろんな事柄を身につけていくうちに適所を見つけて納まるものなのではないだろうか。

3年前、営業から研究所にふたたび異動となり、再度Sさんの部下となったが、得意とする農業とは無関係のテーマを担当することになり、また久しぶりの研究でずいぶん戸惑った。Sさんはそんな私に「一つの商品について研究開発から工業化、営業と一周してきた、そんな経験は貴重だ。これから二周めもよろしく！」と言って励ましてくれた。

Sさんに教えてもらいたいことはまだまだあったのに、と残念でならない。Sさんの恩に報いるためにも、後輩がいきいきと成長できるように見守っていきいたいと思っている。



山田美都子 Mitsuko YAMADA

住友化学(株) 生産技術センター研究グループ  
(生産加工技術)  
主席研究員  
神戸大学農学部園芸農学科卒  
専門は機能性加工製品の開発

E-mail: yamadam12@sc.sumitomo-chem.co.jp